

平成 2 1 年 度

徳島県公立高等学校入学学力検査（後期選抜）の成績結果の概要

本年度の徳島県公立高等学校入学学力検査（後期選抜）は、国語、数学、社会、理科、英語の 5 教科について実施した。

配点は、各教科 1 0 0 点満点で、学力検査の総点は、5 0 0 点満点である。

問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された範囲内で、平常の学習によって養われた力で解答できる問題となるように配慮した。

基礎的・基本的な知識・技能の定着や、思考力、判断力、表現力等をみることができる問題を出題した。また、選択肢形式の問題と記述形式の問題とのバランスを考慮し、文章記述の問題も加えた。教科によっては、選択問題も出題した。

5 教科総合の平均点は、1 0 0 点満点に換算して、5 6 . 2 点であり、昨年度より 0 . 5 点高く、過去 5 か年の平均点より 3 . 5 点低かった。なお、成績集計の結果は、次の表のとおりである。

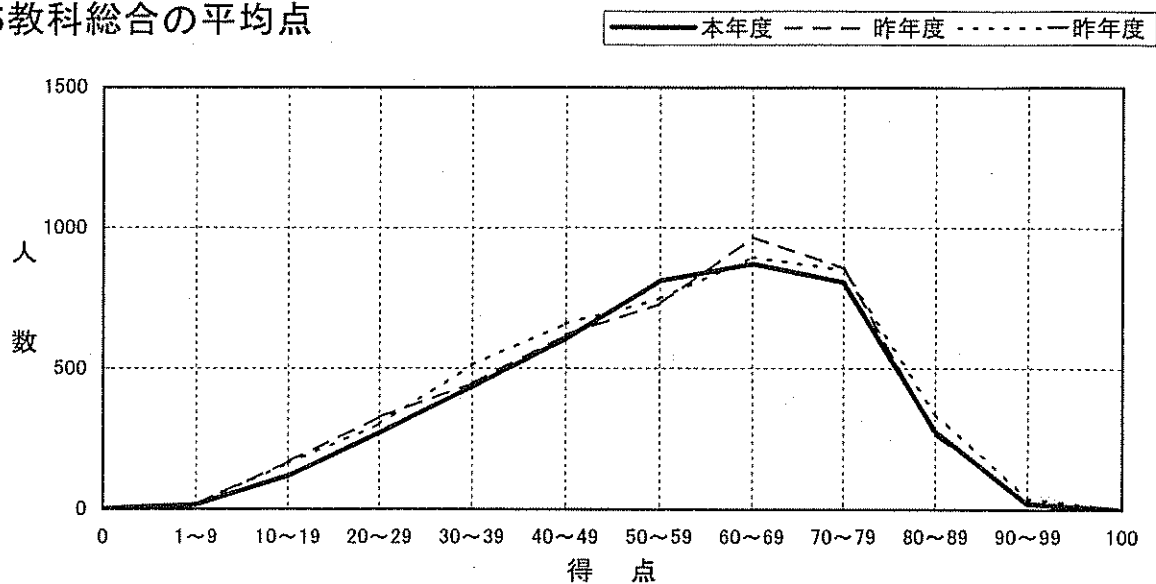
平成21年度
徳島県公立高等学校入学学力検査成績表

受検者総数 4237名

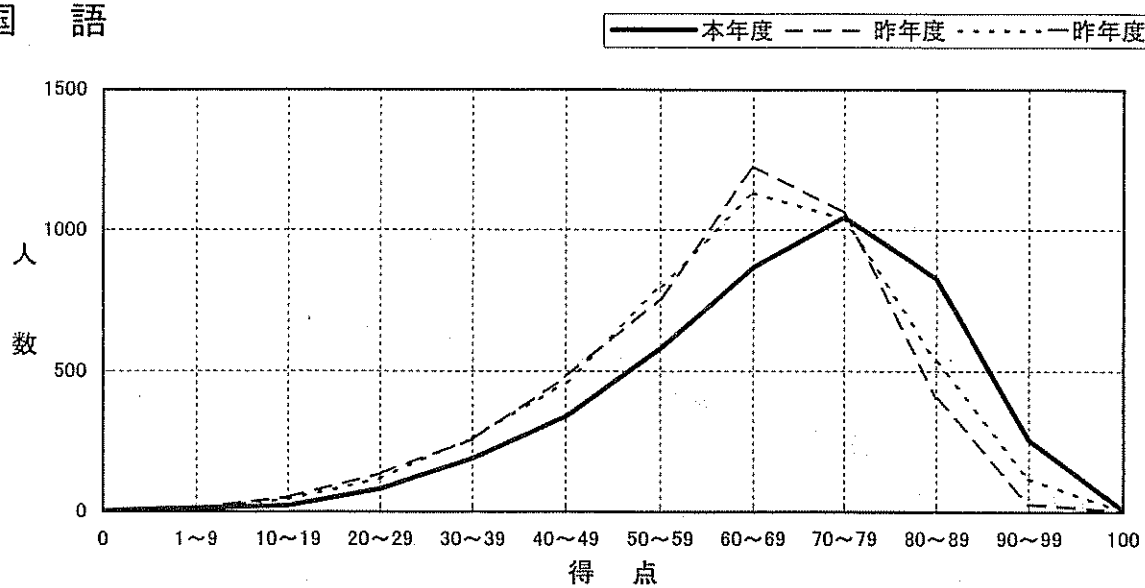
年度 教科	本 年 度		平 成 2 0 年 度		平成20 年度の 平均点 と比較	過去5 か年の 平均点	過去5 か年の 平均点 と比較
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
国 語	67.1	17.2	61.3	16.1	+ 5.8	65.0	+ 2.1
数 学	48.5	18.5	50.0	22.2	- 1.5	51.5	- 3.0
社 会	55.2	21.0	55.3	20.2	- 0.1	60.8	- 5.6
理 科	59.2	21.2	60.4	22.0	- 1.2	61.3	- 2.1
英 語	51.2	22.0	51.2	23.4	- 0.0	59.9	- 8.7
5教科総合	56.2	18.1	55.7	18.8	+ 0.5	59.7	- 3.5

年度 教科	平 均 点					
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
国 語	70.1	62.0	69.0	62.7	61.3	67.1
数 学	50.9	56.3	50.7	49.7	50.0	48.5
社 会	63.5	64.5	60.6	60.3	55.3	55.2
理 科	65.3	66.6	64.1	50.1	60.4	59.2
英 語	65.2	69.9	56.7	56.7	51.2	51.2
5教科総合	63.0	63.9	60.2	55.9	55.7	56.2

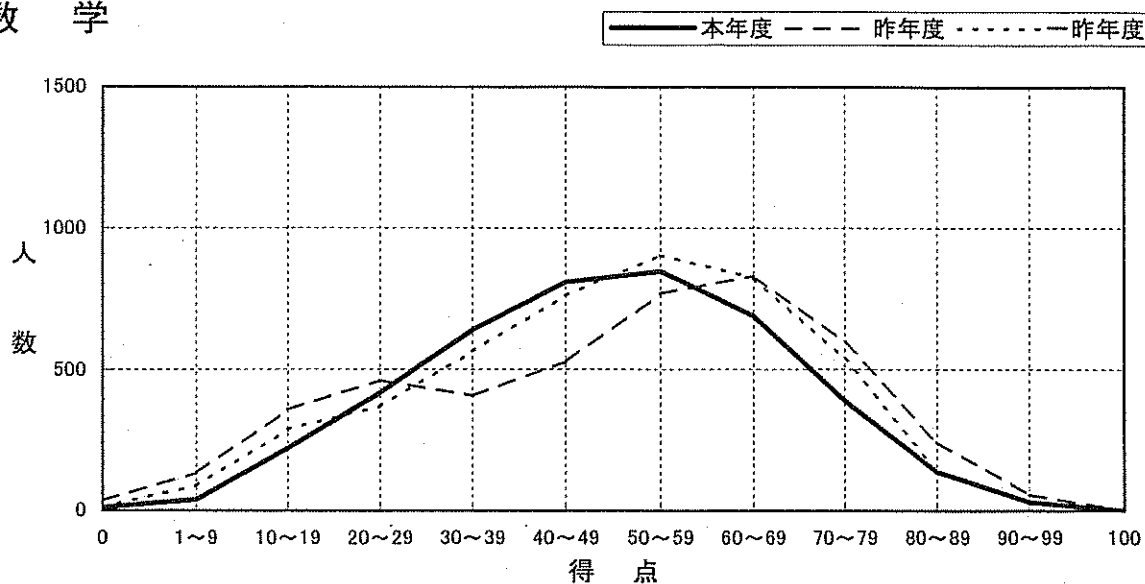
5教科総合の平均点



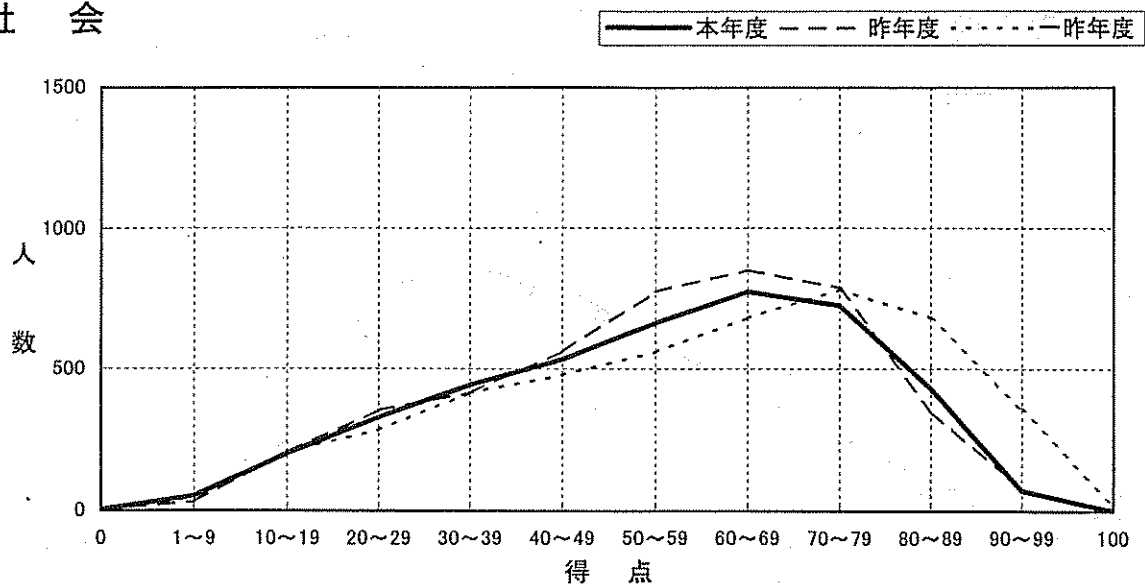
国 語



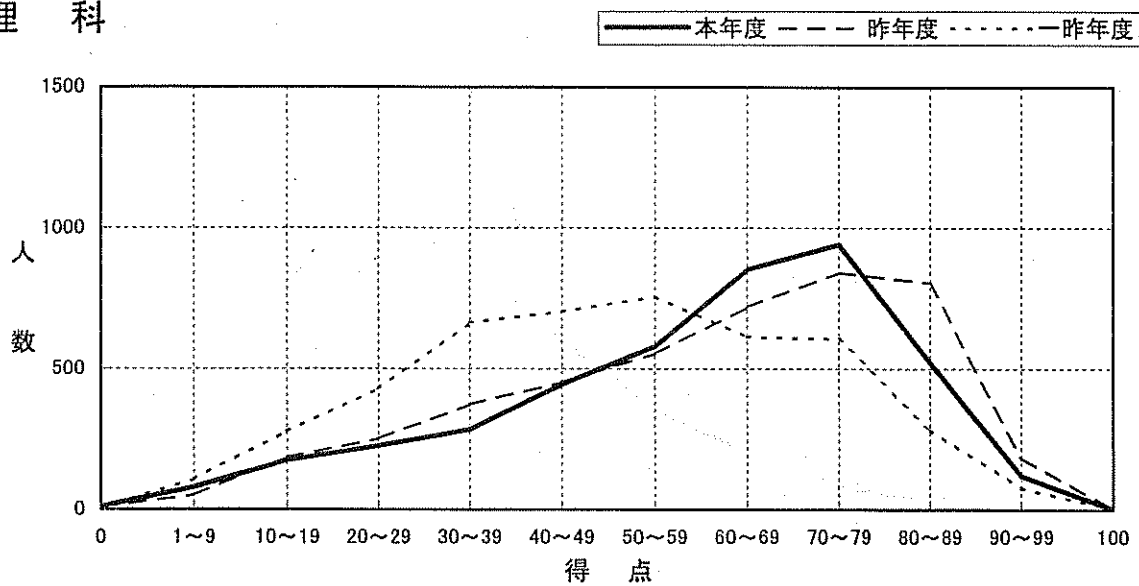
数 学



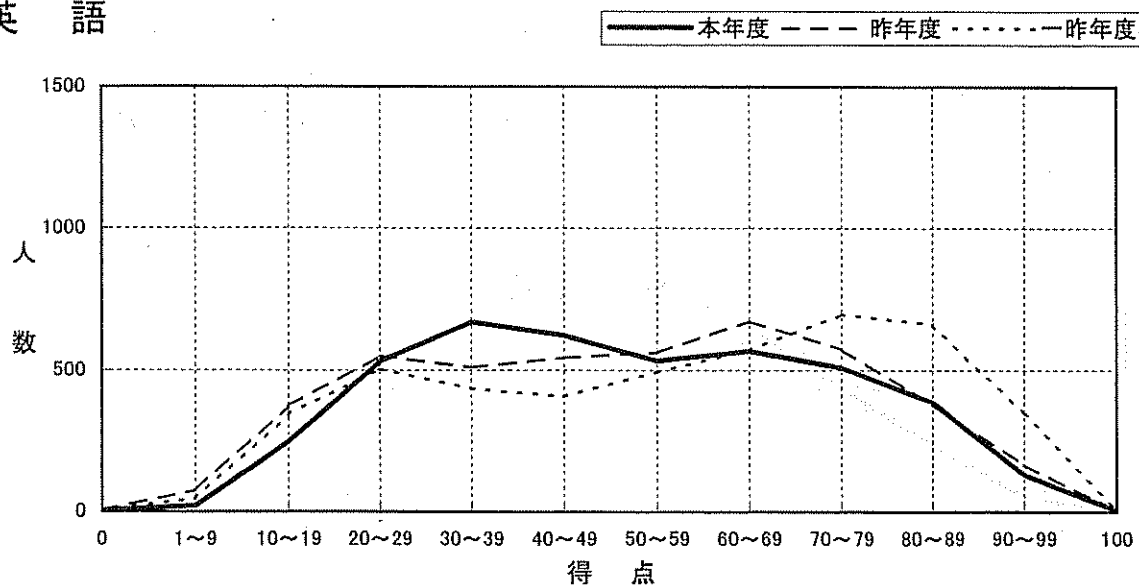
社 会



理 科



英 語



平成21年度 徳島県公立高等学校入学学力検査(後期選抜)成績結果の概要

教科	成績結果の概要
国語	平均点は67.1点で、過去5か年の平均点に比べて2.1点高く、昨年より5.8点高い点数であった。 漢字の読み書きや慣用句、古文の基本事項の正答率が例年より高かった。しかし、45字や60字以内での要約を必要とする記述問題については、昨年と同様、正答率は低く、無答率も高かった。また、本文全体の主旨や構成を大きくとらえる問題に苦手意識が読み取れた。文法問題や敬語表現については、基本的な問題であったにもかかわらず低い正答率であり、特に文法問題では低かった。
数学	平均点は48.5点で、過去5か年の平均点に比べて3.0点低く、昨年より1.5点低い点数であったが、受検生全体の得点分布は正規分布に近い形を示している。 数や文字式の計算、平面図形の性質などの基礎的・基本的事項の理解力をみる問題は良好な結果となっている。しかし、文章や表・グラフを正しく読み取り必要な数量を活用する問題、規則的に変化する数の性質を理解する問題、図形の証明問題など、論理的な思考力、必要な情報を読み取る読解力、言葉や式による表現力をみる問題は、正答率が低かった。また、割合に関する問題の正答率が予想以上に低く今後の大きな課題である。
社会	平均点は55.2点で、過去5か年の平均点に比べて5.6点低く、昨年より0.1点低い点数であった。 資料を使った問題でも、そのはっきりとした特徴を読み取り、教科書の重要語句で答えるような問題は、良好な結果となっている。しかし、地図上の方位や位置から国名や都県名を判断し答えを導く問題や、「住民投票」「財政」「政府開発援助」など公民的分野の語句の意味がきちんと理解されているかを尋ねる問題、近現代に関する歴史の問題では、正答率が低かった。また、文章で記述する問題も、正答率が低かった。
理科	平均点は59.2点で、過去5か年の平均点に比べて2.1点低く、昨年より1.2点低い点数であった。 法則名や化学式に関する問題や気体の捕集に関する問題など、基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題は、良好な結果となっている。また、気体の性質、食物連鎖、葉のつき方について説明する文章記述の問題においても、良好な結果となっている。しかし、実験データなど複数の資料から必要な情報を取り出し、数値処理して答えを導く問題など、定量的な問題では、正答率が低かった。
英語	平均点は51.2点で、過去5か年の平均点に比べて8.7点低く、昨年と同じ点数であった。 地図を見ながら英文を聞いて問いに答えるリスニング問題、会話表現に関する基本的な知識の定着を見る問題や、長文中の下線部の理由を日本語の選択肢から選ぶ問題は良好な結果となっている。しかし、英文の内容を把握して日本語で記述する問題や、長めの英文で答える英問英答問題、前後の文脈を読み取って英作文する問題など、日本語や英語の文章で表現する力をみる問題では無答率が高かった。選択肢がある問題では、明らかな誤答を減らしたため、選択肢の英文を正確に読み取る力の差が得点の差につながったようである。